

2020年12月16日(水)第3水曜祈祷会

ホセア書11:1~12

■今が主を求める時だ(10:1~15)

- ・「イスラエルは生い茂るぶどうの木」→ 民は繁栄の中でますます()に傾斜していった
- ・「主が彼らの祭壇を壊し…」→ 主はアッシリヤを用いて()を完全に滅ぼし尽くす
- ・「彼らを懲らしめることが…願いだ」→ 主のさばきの目的は愛する者への()である
- ・「今が主を求める時だ」→ 民が主を求めるなら、主は必ず正義()の雨を降らせてくださる

■主は獅子のように(11:1~12)

1. 主のイスラエルに対する愛(11:1~4)

- ・「イスラエルが幼いころ、…彼を愛し」→ 主は民を一方的な愛で()から救い出された
- ・「彼らは、呼べば呼ぶほど…」→ 民は神の愛に応えず、()に仕えるようになっていった
- ・「このわたしがエフライムに歩くことを教え」→ 主が民に()教え、養い育てられた
- ・「人間の綱、愛の絆で…」→ 主は民を()を愛するように正しい道に導こうとされた

2. 頑なな民への神の愛(11:5~9)

- ・「アッシリヤが彼の王となる」→ 主は立ち返ることを拒む民を、()を用いて裁かれる。
- ・「わたしの民は頑なに、私に背いている。」→ 民はあくまで神ではなく、()に頼む。
- ・「どうしてあなたを引き離すことが…」→ 「引き離す」「見捨てる」は完全に()こと。
- ・「わたしは怒りを燃やして再び…」→ 主はアッシリヤによって裁いた後、民を()。

3. 主は獅子のように吠える(11:10~12)

- ・「主は獅子のようにほえる」→ 主は子と呼ぶ()のように民を呼び集める。
- ・「彼らは震えながらやって来る」→ 罪を恥じ、主の回復の御業に恐れ戦きながら帰って来る。
- ・「偽りと…欺きで囲まれている」→ 民の罪は()のよう。それ比べれば、ユダはまだ契約に忠実。

◎まとめ:「主は獅子のように」について

- ・神はなぜイスラエルの民を徹底的に罰しなかったのか。
- ・神はなぜ怒りを自らの内で抑えて、愛の方を貫かれたのか。
- ・獅子のように吠える主とはだれのことか。

「私に御顔を向け、私をあわれんでください。…私の悩みと労苦を見て、私のすべての罪を赦してください。」
(詩篇25:16、18)

「ですから、これは人の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるのです。」
(ローマ9:16)